



学校だより

9月号



令和2年8月25日
横浜市立三ツ沢小学校

みつざわしょう にのみやきんじろう
三ツ沢小の二宮金次郎

こうちょう しげた ひであき
校長 重田 英明

待ち遠しかった梅雨が明けたとたん、太陽が容赦なく照り付ける日々が続いております。例年とは異なった短い夏休みでしたが、お子様はご家庭でどのように過ごされたでしょうか。新型コロナウイルスの感染拡大や熱中症の予防に気を払いながらも、それぞれが思い思いの夏休みを過ごすことができたのではないかと思います。

また、地域のラジオ体操やお祭り、習い事での発表の場などは残念ながら実施されなかった夏休みでした。しかし、そのような現実をご家族とともにしっかりと受け止め、しばらく続くであろうこの状況の中で、これからどのような生活スタイルを創っていくかについて考えることができたのではないかと思います。

学校では現在、校庭に埋設されているスプリンクラーの取り換え工事をおこなっています。「東門を使って登下校ができない」「休み時間に思いきり遊べない」など、子どもたちには不便をおかけしておりますが、8月末で一旦工事は終わり、11月初旬までは以前のように校庭を使うことができるようになります。

その工事のようすをミカンの木の下ですっと見届けている石像があります。二宮金次郎の石像です。この像は、本校開校の年でもある1933年（昭和8年）12月に現在の上皇さまのご生誕を祝い、「三ツ沢小の子どもたちも金次郎のようになってほしい」という当時の保護者・地域の方々や教職員の願いを込めて建てられたそうです。この時の像は、今のような石像ではなく銅像でした。ところが、戦争で物資が不足し始めた頃、国から“金属類回収令”が出され、ありとあらゆる金属を国に差し出すことになりました。二宮金次郎の銅像も例外ではありませんでした。

このとき、銅像と引き換えにコンクリート製の像が建てられました。この石像が今の像です。戦争が終わると、それまでの教育の象徴だった二宮金次郎の像は、校庭のすみに穴を掘って埋められました。そして、この作業をしているときに誤って左腕が壊れてしまいました。壊れてしまった左腕は、そっと物置にしまわれていたそうですが、いつの間にか、行方不明になってしまったそうです。その後、世の中が落ち着いてきたので石像を掘り出し、今の場所に建て直したということです。

素材や姿は変われど、開校から87年の間、三ツ沢小の歴史と子どもたちの成長をずっと見守ってきた二宮金次郎の像。感染症や熱中症に負けず、いろいろなことを我慢してがんばっている2020年の三ツ沢っ子に対して、きっと大きなエールを送ってくれていると思います。「**本当によくがんばっているね！大丈夫、大丈夫。これからもその調子でいこう！**」と。

保護者・地域の皆様には、引き続き、本校の学校教育活動に対して、ご理解とご協力のほど、よろしく願いいたします。

